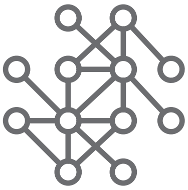
生産性向上に貢献
実務に使える段階へ突入したAIサービスの現在地



ことしに入り、急速な進歩を見せるAIサービス。国内外で開催された展示会から、すぐにでも実務に使えそうな各種AIサービスを紹介する。

ベルケンシステムズ代表取締役
IT導入コンサルタント
鈴木　純二

＊本記事は、2023年6月20日時点の情報に基づいています。

昨今、チャットGPTなる言葉を聞かない日はないぐらい、AIの話題が急増してきました。ただ、その技術の発展速度があまりにも凄まじく、一般の人にとっては報道に追いつくことさえ難しく、ましてや自分達の業務や生活に具体的にどのように役に立つのか、そもそも身近なものになるのか、という問いに対して即答できない人が多いと思います。

ここでは、現段階で製品化されているサービスを、ことしに入ってから半年間に国内外で開催された各種展示会で集めた情報を取り混ぜてご紹介していきます。

何はなくともチャットGPT

まずは、最近のAIのなかでも群を抜いて話題となっている、「ことしのAIブームの火付け役」と言っても過言ではないチャットGPTに触れないわけにはいきません。このサービスは、アメリカのオープンAI社がインターネット上で無料～課金サービスとして展開しているものです。人間の質問や指示に基づいて、自動的に文字情報で回答を作成してくれるサービスです。

従来から同様のサービスはありましたが、「機械が杓子定規に対応している感」が強く、実用にはいま一歩のところの完成度でした。しかし、昨年暮れごろから急速に性能が向上し、それにつれて話題沸騰となりました。

何はともあれ、**図1**をご覧ください。これは、短時間アルバイトの各人の勤務条件を指定したうえで、1週間の勤務シフト表を作成させた例です。

AIへは、「勤務時間調整結果を日別の一覧表にまとめなさい」と指示しましたので、このように表形式できれいに出力されています。これをそのまま表計算ソフトに貼れば、勤務表作成は完了してしまいます。

シフト勤務がある会社では、たいてい頭を悩ます作業を強いられていると思いますが、AIの応用によって、かなりの作業効率化が図れるでしょう。

他にどんなことに使えるかリストアップしてみましたが、きりがありません。たとえば次のような用途が考えられます。

図1　チャットGPTに作成させた勤務シフト表

提出された情報に基づいて、2023年7月1日から7月7日までのシフトを考えました。7月1日は土曜日から始まり、7月7日は金曜日で終わります。各社員の勤務可能時間内で調整しました。

以下にその表を示します：

日付	曜日	鈴木	田中	佐藤
2023/07/01	土	9:00-17:00	9:00-12:00	9:00-14:00
2023/07/02	日	9:00-17:00	9:00-12:00	9:00-14:00
2023/07/03	月	休み	9:00-17:00	9:00-14:00
2023/07/04	火	9:00-12:00	休み	休み
2023/07/05	水	9:00-12:00	9:00-17:00	休み
2023/07/06	木	9:00-12:00	9:00-17:00	9:00-14:00
2023/07/07	金	12:00-17:00	9:00-17:00	9:00-14:00

- ●外国語翻訳
- ●長文の要約
- ●原稿の下案作成
- ●作文の文法チェック
- ●ソフトウェア作成
- ●顧客からの質問に対する回答案作成　等々……

このようにテキスト情報を扱う仕事であれば、主役として活躍せずともアシスタントとしては非常に優秀で、スタッフ仕事の効率化には大いに役に立つと言えます。

なお、何を隠そうこの記事の原稿も、本AIで文法をチェックさせました（注：作文には決して使用していません）。

音声系ＡＩ

チャットＧＰＴはテキスト情報のみを扱えるＡＩですが、早くもそれに「聞く・話す」という機能を組み合わせた応用商品が出始めています。

図２は、台湾の展示会で見かけたチャットＧＰＴと音声認識、音声合成の技術を組み合わせたもので、日本でも各社から類似サービスがリリースされています。チャットＧＰＴに自社の持つＦＡＱコンテンツを学習させ、顧客からの音声での質問を認識したうえで、表示されているアバターが音声で回答する、といったものです。

もちろん、アバターが不要であれば、音声応対だけにすることも可能で、企業の代表電話の受付サービスや、製品に対する質問の一時対応機能として活用できます。しかも、料金は月額数百円程度からと低く抑えられているものもあるので、電話番の必要がない時代になりそうです。

また、音声認識による議事録作成サービスも実用段階です。同種のサービスは従来からもありますが、チャットＧＰＴの機能を組み込むことで、文字起こしした文章をＡＩが校正し、より正確な文章を出力するサービスに仕上がってきています。ウェブ会議サービスへの組込みも可能なので、オンライン会議で遅滞なく議事録を発行できることになり、スタッフの生産性向上に貢献するでしょう。

画像系ＡＩ

画像認識関係のＡＩもかなり進んできています。

図３の写真は、上部の傘のなかに照明とカメラを仕込み、下のベルトコンベアを流れるお菓子を画像認識して良否判定している様子です。カメラ自体は解像度の高いものでもかなり安価になってきているので、実質的にサービスの利用料金だけで目視検査工程の大半を自動化できることになります。

上や横からの画像では良否判定できない複雑な構造の製品の場合は、ロボットハンドに照明とカメラを搭載して影になる部分を覗き込んで判定する、というソリューションもあります（**図４**）。

その他にも、画像を判定するカスタムＡＩの開発企業が数多く起業しています。

社内にＡＩに学習させるべき画像が多数蓄積されているのであれば、それを提供してＡＩに学習させ、良否判定や画像の分類を自動化させることができます。従来、人間の目視でやっていた仕事を自動化できるので、省力化にも間違い防止にも繋がるでしょう。

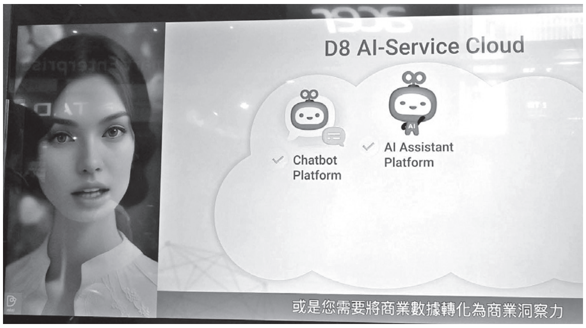
衛星画像を専門に解析するＡＩを提供している会社に話を聞いたところ、「空き地なのか農地なのか駐車場なのかぐらいの判定なら、簡単にできる」との話でしたので、土地探しが必要な業種にも使えるでしょう。

＊＊＊

いかがですか。ご紹介した限りのＡＩは、現実に企業の業務を担う、または、強力に補助するツールになってきていることがおわかりいただけたと思います。それもかなりの速度で進化しているので、まったく目が離せません。

「昨日まではできなかったが、今日からはできる」といったことが頻繁に起きますので、常に情報収集のアンテナを高く保ち、人材不足の時代への対策として積極的な活用を検討したいものです。

図2　AIとアバターによる自動応答対応サービス

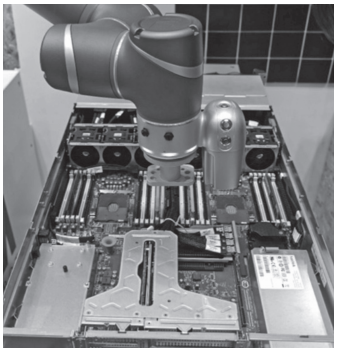


Computex Taipei 2023（台湾）

図3　AIによる外観検査装置（株式会社フツパー）

Vision AI Expo 2023（幕張）

図4　カメラを搭載したロボットハンドによる外観品質確認のデモ



Computex Taipei 2023（台湾）

すずき　じゅんじ　大手ＯＡ機器メーカーでハードウェアエンジニアを経験後、情報システム部、ネット経営戦略責任者等を歴任。独立後、製造業、サービス関係の企業のＩＴ導入を支援する事業を展開する。